



ナイル川で水汲みをする女の子



女子校で公衆衛生のワークショップ



学生たちと集合写真(左前方にPWJ長村)



学生に井戸の使い方を指導



# ASSIST AFRICA

The Republic of South Sudan

## ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

### 慣習からの脱却の一助に —生活基盤整備と衛生教育—

#### アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多く国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起り、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(280円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

#### PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動レポート」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみてください! <http://www.peace-winds.org/m/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク11月号の販売部数  
**5,649部×3円=16,947円**

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。



月刊タウン情報トクスマ\*  
**タウトク**  
medicomm inc  
株式会社メディコム  
月刊タウン情報トクスマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン(以下PWJ)は、ジョングレイ州北西部のファンガック郡にて、昨年度掘削した5本に加え、今年度新たに8本の井戸を建設しました。これにより、さらに多くの人々が安全な水へのアクセスを確保し、健康を維持できるようになったことは、私たちにとって非常にうれしいことです。その一方、井戸を使わず川の水をいまだに生活用水として利用している人々もいることが最近の調査で明らかになりました。

その主な理由としては、「川の水と味が異なる」「井戸より川が近いから」「これまで川の水で生活してきたから」など、ナイル川の支流に囲まれ、生活水の確保が他郡と比べ比較的容易である同郡の地理的特徴に起因するものでした。しかしながら、首都ジュバの発展に伴う生活排水の増加と汚水処理施設不在により、ナイル川の水質は以前と比べ悪化する傾向にあり、こうした汚染された川の水を生活用水として使い続けることは、下痢などの軽度な被害から、より深刻な健康被害をもたらす危険性があります。被害が深刻化するのを防ぐため、井戸建設という生活基盤整備だけでなく、彼らの水に対する生活スタイルを変えていくきっかけづくりとして、これまで井戸の維持管理の主体となる水委員会メンバーに対して行っていた公衆衛生に関するワークショップを小学校の生徒に対しても実施しました。



この料理も川の水を使っている

今回対象にしたのはニューファンガック町にある3つの小学校(6歳~15歳)です。学校を対象に選定した理由としては、生徒を通じてその家族にも伝播する効果を期待するとともに、水汲み作業は女性だけでなく多くの子供たちが従事しているからです。それぞれの学校で約30名の生徒を集めてもらい、先生にも参加してもらいま

した。どの生徒も水汲み作業に従事した経験があることから、真剣に耳を傾け積極的にワークショップに参加していました。ある女子校では特に、この地域の女性が水周りの仕事をする文化が根深く残っているということもあり、一際真剣に取り組んでいました。

ワークショップでは「川の流れを知るための南スーダンの地理」「きれいな水・汚い水とは」「川の水はきれいか」「首都ジュバでの排水の状況」そして最後に「井戸水を使うことの大切さ」を順序立てて説明しました。

地理の話の際のアイスブレイクとして、「日本はどこにあるでしょう。」という質問を投げかけ、黒板に書いた世界地図をもとにみんなに指示してもらいましたが、案の定、誰も日本の位置を知りませんでした。エジプトあたりを指し示す生徒、ヨーロッパの方を指し示す生徒など様々でした。ただ驚いたことに、「では南スーダンはどこ?」と聞いてみても誰も正確に示すことができなかったのです。場の緊張がとけたアイスブレイクとしてはよかったのですが、ワークショップの内容を理解できるのか不安を持ちました。しかし、「ナイル川の位置」「首都と自分たちが住んでいる地域の位置関係」について順番を追って説明すると子どもたちも理解してくれました。

また「川の水はきれいか?」について話をした際には、参加した子供たちすべてが「川の水は飲み水には適さない」と回答したことには非常に驚かされました。「適さない」と分かっている、なぜ飲むの?と質問してみると、明確な答えがなく苦笑いするばかり。結局これまでの生活習慣に慣れ、頭では分かっている、行動になかなか移せないといったところなのでしょう。その後、ワークショップはスムーズに進み、終わりには「今日学んだことを友達や家族の人に必ず伝えておいて。」というメッセージを残し、授業は終わりました。

このワークショップを通じて、長い期間にわたって根付いた習慣を変化させるためには、各地域の状況を考慮したアプローチが必要であることを痛感しました。井戸建設が住民の方々の生活基盤の改善と健康維持管理に貢献するためにも、各地域の特性に配慮した事業実施を心掛け、PWJは今後もジョングレイ州の人々の生活改善に資する活動に励んでいきます。

報告:長村裕(南スーダン駐在)

\*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみさまによる寄付金により実施しています。